

平成30年度自己評価シート（中間評価）

平成29年度～平成31年度

校番	1	学校名	広島皆実高等学校	校長氏名	隠澤浩雄	全・定・通	全・分
----	---	-----	----------	------	------	-------	-----

行動計画

学校経営目標							
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等			
1 知・徳・体の基礎・基本を身に付け、文武両面で力を発揮することができる生徒を育てる。							
生徒の学力・技能向上「課題発見・解決学習」にかかわる取組の推進	「探究」プロジェクトチーム、教科主任会議を中心に次の取組を行う。 ①コンピテンシーを明確にしたアクティブラーニングの取組についての教員相互の授業観察を充実させるなど、授業力向上の取組を進める。 ②中間・期末試験において、大学入試問題等の分析等も踏まえ、作成した思考力問題の分析を行うなど、作問力向上の取組を進める。 ③各科目のいくつかの単元等において作成したルーブリックの分析を行うなど、評価力向上の取組を行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・皆実コンピテンシー生徒版を作成し、全体に周知した。そして、皆実で育てたい資質・能力と授業改善を連関させる取組を進めている。 ・今年度も定期試験における思考力問題の作成と教科での分析、さらに教科主任会議での報告・分析の取組を進めている。 ・H27～29年度に作成した各科目の年間評価計画をふまえ、今年度の公開研究授業の取組を通して、評価（ルーブリックを含む）についての研修を進める予定である。 	1 教務「探究」プロジェクトチーム			
家庭学習時間の確保	①1学期に学習方法セミナーを行い、学習時間増加の動機付けを行う。 ②部活動顧問からの働きかけを強化する。これらにより、進路実績がよかった平成22年度入学生の実績（1年107分 2年157分 3年268分）を教員・生徒が常に意識する。 ①学習時間が目標を下回っている生徒に対して、学年指導・担任指導・学年主任指導と指導体制を作る。 ②担任と教科担当との連携を常に行う。 ③定期考査の範囲を2週間前に提示し、計画的に学習させる。 ④新入生については、学習時間を確保するための方策について、具体的な例を示し指導する。教科担当者とも連携を図り、予習－授業－復習を徹底させるための方策を講じる。	C	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間を平均すると例年「中だるみ」といわれる2学年は「健闘している」といえるが、休日の学習時間が0分と答える生徒が増加している。 	2 教務			
全国大会レベルの部活動	①各顧問が部員に対し、常に競技力・技能等の向上を意識させ、全国を目標とし、指導者とのゆるぎない信頼関係を確立させ、自律した活動を行えることを目指す。 ②強化クラブや、継続的に全国大会への出場を果たしているクラブを中心に、全国大会に出場する生徒をこれまで以上に増加させるよう活性化を図る。（過去最高を目指す）	B	① ②とも計画は概ね順調に進んでいる。	4 特別活動			
全国大会レベルの部活動	①全国の強豪校との練習を通して、生徒の意識レベルの向上と指導者の情報交換を行う。 ②指導者講習会に積極的に参加して、理論に基づいて多様な生徒の力を引き出すことができるような力を身に付ける。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・強化部顧問が県外指導者と積極的に情報交換を行っており、最先端の技術・指導方法を取り入れている。 ・中央競技団体の主催する研修会へ参加することにより、効果的なトレーニング内容を研修している。 	5 体育科			

豊かな人間性や社会性の育成	①社会奉仕活動の一環として、募金活動や清掃活動、ボランティア活動などに参加し、積極的に社会に奉仕する意欲と態度を育成する。 ②交通安全運動や看護科出前授業、小学生対象サッカー教室等を実施するとともに、更に校外での奉仕活動に積極的に参加し、よりよい社会づくりに主体的に参画する意欲と態度を育成する。	B	①②ともおおむね順調に進んでいる。	6 特別活動
	①公共交通機関内、及び自転車登校中のマナーについて、風紀委員会を中心に各種の啓発活動を行う。 ②PTAや関係機関と連携し、交通マナーを高めることで、本校に対する地域からの信頼を維持するとともに、生徒の自身の交通安全に対する意識を高める。	B	①②とも概ね順調に進んでいる。広島南警察署交通安全協会から「高等学校自転車マナーアップ推進校」に指定された。	7 生徒指導

【評価結果の分析】

- 1 生徒版「皆実コンピテンシー」の作成や、思考力問題の作成・検討を通して、資質・能力の育成の視点から授業をプランニングし、評価する取組が推進されている。
- 2.3 休日の学習時間「0分」の原因がすべて部活動に帰するとは言えないが、行事（皆実祭）や部活動の大会等と家庭学習との切り替えが出来ていない生徒が多いのではないかと推測される。
- 4.5 強化クラブでは、練習試合や遠征、合宿を通して全国レベルを基準とした、競技課題を発見し、日常の練習で課題の解決に取り組むことを繰り返し行っている。そのことにより、生徒一人ひとりの目標も明確になり、毎日の部活動にも取り組みやすくなり、生徒の自律した活動が見られ、出場した全国大会でも活躍することができた。
- 6 部活動、学科（衛生看護科）による清掃活動、生徒による自発的な清掃活動が行われている。また、交通安全協会によるマナーアップキャンペーン、NGO団体（あしなが育英会）による街頭募金に全学年から生徒が参加した。皆実祭の売上金を日本赤十字社に寄付した。
- 7 広島南警察署、南区役所をはじめ近隣高校と連携を図りながら街頭指導に取り組んだ。1 学期に生徒会で自転車マナーアップのアンケートを作成し意識調査を行った。

【今後の改善方策】

- 1 「探究プロジェクトチーム」の取組を、教科主任会議・学年会へと発信することで、資質・能力と学習活動の連関に対する教員・生徒の意識を高める。また、11月の公開研究授業に係る取組を資質・能力の育成の視点から行い、2回目の相互授業観察へと繋げ、授業改善の取組みをより充実させる。
- 2.3 部活動と家庭学習の切り替えが出来ないことの原因をすべて生徒の自覚のなさや自律心のなさに帰するのは適切ではない。教員の側も、宿題等の課題を増やせば家庭学習量が増加すると考えるのではなく、日常の授業の中で家庭学習を必要とする（予習を前提とする）授業を行う等、授業改善の取組みが必要である。
- 4.5 夏に得た課題などを修正、改善し、冬季の全国大会に向け、さらにチーム力を上げたり、2年生を中心とした新チームの育成など、それぞれの目標や生徒の状況に応じた強化計画を綿密に作成し、体育科支援事業などを十分に活用し、競技を通じた生徒の主体的な学びを深め、その質を高めて行く。
- 6 社会とつながることができる多様な場を可能な限り紹介し、参加にあたっては課題解決が自主的にできるような支援を行う。
- 7 2 学期には出汐交差点の登校時の様子（映像）の検証をはじめ、第2回アンケートを実施し3学期に繋げる。また、「高等学校自転車マナーアップ推進校」として、地域における自転車利用者の見本となるように取り組んでいく。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
2 高い志と確かな目標を持ち、進路希望を実現していける生徒を育てる。				
「課題発見・解決学習」にかかる取組の推進	<p>①毎時の授業において、生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりすることができるよう、めあてと振り返りがつながる授業づくりを進める。</p> <p>②総合的な学習の時間・行事・授業において、考え・基礎知識→つながり→応用・ひろがりを意識したカリキュラムづくりを進める。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 国語科の「学習の記録」や数学科の「シラバス+ (プラス)」など、「授業のめあての提示～その時間の振り返り」というプロセスを意識した授業づくりを各教科で進めている。 総合的な学習の時間を皆実コンピテンシー (皆実で育てたい資質・能力) の視点から見直し、「皆実生学びの軌跡」と名付けたポートフォリオシートを作成して実施するなど、行事との連関をしたカリキュラムづくりを進めている。 	1 教務 「探究プロジェクトチーム」
希望する大学への進学	<p>①センター試験で安定的な得点ができる学力、学習方法を明確にする。</p> <p>②進路指導部、学年会、各教科、部活動顧問が連携し、学習と部活動を両立させる指導を行う。</p> <p>③進路検討会議と面談・個別指導を接続させる。(チューター制を3年1学期から実施する。)</p> <p>④1・2年生の長期休暇中の指導方針を各教科で検討し、補習等を実施する。</p> <p>⑤難関大広大セミナー(3年)を実施する。</p> <p>⑥大学模擬授業、職業人からの講義などを実施するとともに、修学旅行等学校行事と連動し、系統的に生徒の進路意識を高める。</p> <p>⑦保護者対象進路説明会を充実させる。</p> <p>⑧志レポート・志望理由書を充実させる。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の状況や新テストに向けた状況について、日常的に細かく情報交換し、学年会・教科会・部活動顧問との連携をとっている。3年生生徒については、5月下旬より、チューター制を導入している。 難関大広大セミナーは8月に実施済み。 1年生キャリアガイダンス、2年生修学旅行に関わるプログラムは2学期に計画的に実施予定である。 9月に3年生保護者、12月に2年生保護者に対して進路説明会を実施する。 志レポート・志望理由書作成は3学期に実施予定である。 	2 進路指導
〔衛生看護科・専攻科〕 看護者として希望する進路実現	<p>(1) 地域医療に貢献する使命感・倫理観を持った看護職者を育成する。</p> <p>①看護科行事を実施する。 ・教科看護のオリエンテーション、衛生看護科体験入学、継灯式(2学年全体行事)等</p> <p>②社会人講師を活用する。</p> <p>③地域の児童館での出前授業を実施する。</p> <p>④看護クラブの活動の活性化を図るとともに、生徒が主体的に活動できるようボランティア情報を適切に提供する。</p> <p>⑤看護職への就業意欲や学習意欲の維持させるための5年間の指導方法について検討する。</p> <p>(2) 看護実践能力を向上させる。</p> <p>①看護臨地実習により看護実践能力を向上させる。 ・看護技術等の繰り返しの指導及び実習施設指導者との連携による指導 ・看護実践能力を向上させるための取組みの工夫集を作成する。 ・専攻科生徒から衛生看護科生徒への看護技術伝承授業を計画・実施する。</p> <p>②授業力を向上させる。 ・研究授業年5回以上の実施及び授業評価アンケートによる分析</p> <p>③生徒の状況を的確に把握する。 ・面接指導を毎学期実施、保護者懇談会、三者懇談会を年2回程度実施、 ・衛生看護科 専攻科生徒の合同進路情報交換会を行う。</p> <p>④看護師国家試験受験の心構えや学習方法を定着させる。 ・専攻科1年、2年研修合宿、専攻科2年次の個別指導、グループ学習、チューター制指導による面接</p>	B	<p>(1) 看護科行事、社会人講師の活用は計画とおり行っている。</p> <p>③については、今年度は商業施設(2か所)での看護科紹介イベントを実施し、生徒の主体性を高めるため生徒自ら企画・運営を行った。</p> <p>(2) ①～④のそれぞれの項目については計画とおり進めている。</p> <p>就職先内定率・看護師国家試験合格率ともに目標の100%を目指し、個別の生徒の状況に合わせて指導を継続している。</p> <p>専攻科生徒から衛生看護科生徒への伝承授業は1月に実施予定である。</p> <p>11月には専攻科2年生保護者、生徒参加の看護師国家試験説明会を実施する。</p>	3 看護科

	<p>〔体育科〕 専門を生かした 進路実現</p>	<p>①進路相談による生徒の状況把握、指導 ・担任や部活動顧問による面接指導を積極的に行う。 ・本校卒業生（講師や教育実習生）による進路相談を行う。 ②指導経験による意識の醸成 ・2年次のスポーツ総合演習において、地域の中学校に対して出前授業を行う。 ・部活動ごとに中学生・小学生等への指導の場を増やす。</p>	B	<p>①②とも概ね順調に進んでいる。 教科・競技を生かした進学割合の目標 75%、専門分野への進学者数の目標半数以上、の見通しが持てる。</p>	4 体育科
--	-----------------------------------	--	---	--	-------

【評価結果の分析】

- 1 授業評価アンケートの結果は、質問1「この授業はわかりやすいですか？」H29-85.9%→H30-90.3%→+4.4。質問2「この授業では学習のねらいに沿って求められている思考力を発揮する場がありますか？」H29-83.3%→H30-89.9%→+6.6。質問3「この授業はもっと学習したくなるような興味関心がわかりますか？」H29-78.7%→H30-84.0%→+5.3 となった。
- 2 3年生7月記述模試結果は5教科文系でH29(偏差値51.2)→H30(偏差値51.7)、5教科理系でH29(偏差値52.4)→H30(偏差値48.2)であり、理系数学・専門理科の強化が必要である。また、難関大広大セミナー受講者の感想文から、「今後受験勉強をやり切る原動力になった。」とか「学んだことを、クラス・学年全体に還元する。」という文面があり、今後を期待している。
- 3 地域の老人保健施設、児童館等への出前授業は、10か所について計画的に実施した。また、商業施設（2か所）において看護科の理解を得るため看護クラブによる活動を行った。ボランティア活動は社会福祉協議会等を通じ案内があったものについて生徒に情報提供を行い参加している。7月の豪雨災害により、一部の実習病院から保育ボランティアの要請を受け、希望した生徒が参加した。土砂の撤去等に参加した生徒もいる。看護実践能力を向上させるため、放課後実習室の解放や臨床の場の患者を想定した状況アセスメントを授業でも多く取り入れるなど工夫している。④について、6月実施の業者模擬試験の結果からチューターが夏季休業中の補強領域及び生活面の指導を行っている。
- 4 強化部顧問における面接指導を夏季休業中を中心に実施し、競技力指導だけでなく進路相談を積極的に実施している。本年度も近隣中学校と連携し、出前授業が実施できるよう、授業内容に取り組んでいる。

【今後の改善方策】

- 1 授業評価アンケートの結果を各教科の学習時間や模擬試験の結果などとあわせて分析し、授業改善の継続的な取組へと繋げる必要がある。
- 2 模試試験結果や学習時間調査から各教科の不得意分野を分析し、個々の生徒に対しては教科バランスを中心により具体的な指導が行えるよう分掌会（進路指導）を中心に、学年会・教科会・部活動顧問との連携を続けていく。
- 3 ①の専攻科生徒から衛生看護科生徒への看護技術伝承授業は3学期に実施予定である。

学校経営目標				
達成目標	本年度行動計画	評価	理由	担当部等
3 地域から信頼される学校となる。				
「安全・安心・信頼される学校」(広島県教育に関する大綱にかかる取組の推進)	①教育相談体制のさらなる充実 ・教育相談室の機能を周知する。 ・職員研修を通じて生徒理解の視点を身に着ける。 ②定期的な安全点検、日常点検の充実 ・安全で安心できる学校をつくるため、教職員による学期に一回の安全点検を実施。緊急事態発生時の対応や教職員の研修など危機管理体制を確立する。 ③生徒・保護者アンケートの実施 ・文武両道に打ち込み、より良い学校づくりがなされているか毎学期にアンケートを実施。勉強と部活動の両立と良い人間関係がより良い集団づくりを確立する。	B	①②③とも概ね順調に進んでいる。生徒保護者アンケート「皆実高校は安心して勉学や部活動に打ち込み、よりよい人間関係の中で生活できる学校づくりを進めている」に肯定的な回答が95%以上という目標を達成できそうである。	1 保健 生徒指導
積極的な情報発信	①本校のホームページで1年以上更新されていないページをなくすために、各部署と連携を取り積極的に更新する。	B	HPでは、未発信項目も一部あるが概ね順調に進んでいる。	2 総務
入学希望者の増加	①複数回実施しているオープンスクール、学校説明会をさらに充実させていく。 ②学校説明会、塾主催の説明会に積極的に参加しPR活動に務める。	A	中高連携・地域連携では2300名を超える参加者となり、地域・保護者からの高い期待がある	2 総務
【業務改善】 生徒と向き合う時間を確保して、教職員と生徒が「チーム MINAMI」として一丸となる。	授業、授業準備・教材研究、部活動、個別指導、週案作成に充てる時間を増加させる。そのために、狙いや目的を明確にして業務内容を見直す。	A	アンケートは未実施であるが、日常的に「生徒と向き合う」ということが話題となっていて順調といえる。	3 各分掌

【評価結果の分析】

- 1 教育相談便りで本校の教育相談体制を周知している。また、夏季懇談時に7月豪雨災害による心のケアについて掲示で周知した。教職員研修も、本校の実態に沿い、継続性のあるものにしていく。施設設備の安全について定期的な点検、日常の点検を計画通り実施した。よりよい学校作りについて生徒・保護者アンケートを計画通り実施し、改善に向けて各部署と連携しながら取り組んでいる。
- 2 年度当初にホームページ原稿作成分担を確認した。現在、部活動報告など更新のないものもあるが、概ね順調に行っている。また、素早い情報発信に心懸けている。
オープンスクール、衛生看護科体験入学に合計約1,900名を超える参加者があった。塾主催の説明会では現在416名の参加者があった。
- 3 生徒と向き合うことを大事に考えるという皆実の文化が一層明確になっている。部活休養日の設定や勤務管理システムの運用により、平日の退校時刻が早まっている人が増えた。

【今後の改善方策】

- 2 オープンスクールの参加者数が昨年度を大幅に超えた。体育館の収容人数を超えたため、来年度以降対処方策を考えていく。また、アンケート結果や当日寄せられた情報を分析し、課題を把握し、改善する。HPの更新の時期・内容に関する更新計画をつくり、順次更新できる体制づくりをさらに進める。
- 3 授業、授業準備・教材研究、部活動、個別指導、週案作成に充てる時間の増加についてアンケートを3学期に実施し、3月の第2回学校評議員会・学校関係者評価委員会に報告する予定である。

平成30年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	1	学校名	広島県立広島皆実高等学校	校長氏名	隠澤 浩雄	④・定・通	④・分
----	---	-----	--------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

強化クラブでは、全国レベルを基準とした、競技課題を発見し、日常の練習で課題の解決に取り組むことを繰り返し行うことで目標も明確になり、自律した活動が見られた。その他自発的な清掃活動・交通安全協会によるマナーアップキャンペーン・NGO団体(あしなが育英会)による街頭募金・日本赤十字社への寄付等様々な活動を行っている。国際的なフォーラムへの参加をしている生徒もいる。資質・能力の育成の観点からプランニングを進めている授業への関心度や満足度も高い。しかしながら家庭学習時間だけは振るわない。家庭学習とその他の活動の切り替えがうまくいかないのか、阻害要素は何なのか分析は途中段階である。

3年生7月記述模試結果は5教科文系は順調だが、理系数学・専門理科の強化が必要である。また、難関大広大セミナー受講者の感想文には「今後受験勉強をやり切る原動力になった。」や「学んだことを、クラス・学年全体に還元する。」という記述があり、今後に期待している。看護科では学んだことを実習やボランティア活動等で生かし、その成果をまとめて外部へ発信している。その体験が次の学習意欲につながり、本質的な学びがうまく回っている。体育科では、強化部顧問による競技力指導だけでなく進路相談を積極的に実施している。本年度も近隣中学校と連携し、出前授業が実施できるよう取り組んでいる。学んだことや経験を他者に伝える力に昇華させつつある。

教育相談便りで本校の教育相談体制を周知している。また、豪雨災害による心のケアに努めた。教職員研修も、本校の実態に沿い、継続性のあるものにしていく。年度当初にホームページ原稿作成分担を確認した。現在、部活動報告など更新のないものもあるが、概ね順調に行っている。また、素早い情報発信に心懸けている。オープンスクール、衛生看護科体験入学に合計約1,900名を超える参加者があった。塾主催の説明会では現在416名の参加者があった。地域からの期待と信頼に手ごたえがある。生徒と向き合うことを大事に考えるという皆実の文化が一層明確になっている。

2 今後の改善方策

「探究プロジェクトチーム」でカリキュラムマネジメントを行っている。社会とつながることができる多様な場を可能な限り紹介し、参加にあたっては課題解決が自主的にできるような支援を行う。学校内外の各場面での生徒の自主性を見取り、自覚させ、自主的な学びへと繋げていく。結果として家庭学習時間の増加を期待する。一方では、日常の授業の中で家庭学習を必要とする(予習を前提とする)授業を行う等、授業改善の取り組みも継続する。模試試験結果や学習時間調査から各教科の不得意分野を分析し、個々の生徒に対しては教科バランスを中心により具体的な指導と高い志を育む指導を継続する。

部活動では夏に得た課題などを修正、改善し、冬季の全国大会に向け、さらにチーム力を上げたり、2年生を中心とした新チームの育成など、それぞれの目標や生徒の状況に応じた強化計画を綿密に作成し、体育科支援事業などを十分に活用し、競技を通じた生徒の主体的な学びを深め、その質を高めて行く。

2学期には出汐交差点の登校時の様子(映像)の検証をはじめ、第2回アンケートを実施し3学期に繋げる。また、「高等学校自転車マナーアップ推進校」として、地域における自転車利用者の見本となるように取り組んでいく。

専攻科生徒から衛生看護科生徒への看護技術伝承授業は3学期に実施予定である。

オープンスクールの参加者数が昨年度を大幅に超えた。体育館の収容人数を超えたため、来年度以降対処方策を考えていく。また、アンケート結果や当日寄せられた情報を分析し、課題を把握し、改善する。HPの更新の時期・内容に関する更新計画をつくり、順次更新できる体制づくりをさらに進める。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

評価は、目標に対する達成度が100%をめざしたものであるが、65%の達成度であっても、生徒個々は、満足度100%となる場合もあるのではないかと。教職員のインプット指標に対して100%を満たさないという評価では、教職員の心に背負うものになり、つらいのではないかと。生徒個々の幸福度につながる指標をもっと取り入れることが必要という助言があった。次年度の評価指標を立てる時に、生徒の満足度を指標に取り入れたい。

平成30年度学校関係者評価シート(中間評価)

平成30年10月9日

校番	1	学校名	広島皆実高等学校	校長氏名	隠澤 浩雄	Ⓐ・定・通	Ⓑ・分
----	---	-----	----------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標, 指標, 計画等の設定の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> 達成目標が厳し過ぎるのではないですか。生徒の満足度は高いと見えます。 生徒・目標, 指標, 計画等の設定については, 適切に行われている。 部活動も全国レベルの活躍も続けてほしい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> 計画の進捗状況の評価については, 概ね適切である。 運動会を見て, 生徒の一生懸命さに心打たれた。フォクダンスでの生徒の笑顔もよかった。生徒を主体とした企画運用力・プレゼン能力が順調に育まれている。
目標達成に向けた取組みの適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> 年々内容の充実がなされて, 発展の用様子がよく見える。 看護科は個別の生徒の状況に合わせて指導をされている。成果の継続を期待したい。 ボランティア・HPなど関係者評価委員会・評議員会での提言が活かされている。
評価結果の分析の適切さ	A	<ul style="list-style-type: none"> 評価結果については, 概ね適切に分析をされている。 生徒は実生活での体験の幅が狭くなっている。具体的な指示が必要だ。
今後の改善方策の適切さ	B	<ul style="list-style-type: none"> 行動計画が具体的になされ, わかりやすい。 防災計画の推進が必要だ。
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 全般的に順調で高く評価したい。今後とも尽力して欲しい。 皆実の人気の理由がよくわかった。保護者としても, 改めて卒業させてよかったと思った。